

演劇 × ダンス × 美術 × 音楽 … に会う、国際舞台芸術祭

フェスティバル / トーキョー 16



PRESS RELEASE

フェスティバル / トーキョー（以下、F/T）は、東京で開催される国際的な舞台芸術フェスティバルとして、舞台芸術の魅力を多角的に提示し、国境、世代、ジャンルを越えて多様な価値が出会い、お互いに刺激しあうことで、あらたな可能性を拓くことを目指しています。

第9回となるF/T16においても、「境界を越えて、新しい人へ」をテーマとし、国内外から集結する同時代の優れた舞台作品の上演を軸に、各作品に関連したトーク、映画上映などのプログラムを約2ヶ月間にわたって展開します。「境界」は、国籍や世代だけでなく、わずかな価値観の差異、経験の有無まで、私たちのまわりに無数に存在しています。フェスティバルを通じて、社会をあらたな目で問い直す力を持った作品や、その創り手と観客が向き合うことで、「境界」を越えた対話を生み出していきます。

2016年10月15日（土）－12月11日（日） 58日間

東京芸術劇場、あうるすぽっと、にしすがも創造舎、池袋西口公園、森下スタジオ ほか

festival-tokyo.jp

東京芸術祭とは

東京の多彩で奥深い芸術文化を通して世界とつながることを目指した、都市型総合芸術祭を創設します。2016年秋は舞台芸術フェスティバルを豊島区池袋エリアで展開。新たな価値観をめぐむ交流と参加の場が生まれます。フェスティバル / トーキョー 16 は東京芸術祭 2016 の一環として開催されます。

東京 **TOKYO**
芸術祭 **METROPOLITAN**
2016 **FESTIVAL**

広報に関するお問合せ

フェスティバル / トーキョー 実行委員会事務局 広報：小倉、武田
TEL: 03-5961-5202 FAX: 03-5961-5207 MAIL: press@festival-tokyo.jp
〒170-0004 東京都豊島区北大塚 1-15-10 東部区民事務所 3階

- 01 『フェスティバル FUKUSHIMA!@池袋西口公園』 音楽/ダンス[日本]
総合ディレクション：プロジェクト FUKUSHIMA!+ 山岸清之進
- 02 『Woodcutters — 伐採 —』 演劇[ポーランド]
翻案・美術・照明・演出：クリスチャン・ルパ
- 03 イデビアン・クルー『シカク』 ダンス[日本]
振付・演出：井手茂太
- 04 パク・グニョン × 南山芸術センター『哀れ、兵士』 演劇[韓国]
作・演出：パク・グニョン (劇団コルモッキル)
- 05 『x / groove space』 ダンス[ドイツ]
振付・構成：セバスチャン・マティアス
- 06 マレビトの会『福島を上演する』 演劇[日本]
作・演出：マレビトの会
- 07 FM3『Buddha Boxing』 音楽[中国]
演出：FM3
- 08 ドーレホイヤーに捧ぐ『人間の激情』『アフェクテ』『エフェクテ』
構成・振付：スザンネ・リンケ ダンス [ドイツ]
- アジアシリーズ vol.3 マレーシア特集**
[公演編]
- 09 インスタントカフェ・シアターカンパニー『NADIRAH』 演劇 [マレーシア]
作：アルフィアン・サアット 演出：ジョー・クカサス
- 10 『B.E.D. (Episode 5)』 ダンス [マレーシア]
構成・演出・振付：リー・レンシン
- [レクチャー編]
- 11 ASWARA — マレーシア国立芸術文化遺産大学『BONDINGS』
コンセプト：BONDINGS クリエイティブチーム レクチャー[マレーシア]
作：スリ・リウ 講師・演出：ウォン・オイミン
- 12 『POLITIKO』 レクチャー/ゲーム [マレーシア]
講師・コンセプト：ムン・カオ
- まちなかパフォーマンスシリーズ**
- 13 『ふくちゃんねる』 演劇[日本]
作・演出・出演：福田 毅
- 『うたの木』 ダンス[日本]
森川弘和 (振付・出演) × 村上 渉 (振付・出演) × 吉田省念 (音楽・出演)
- 14 ドキュメント『となり街の知らない踊り子』 演劇[日本]
脚本・振付・演出：山本卓卓
- チェルフィッチュ『あなたが彼女にしてあげられることは何もない』
作・演出：岡田利規 演劇[日本]
- 15 F/T キャンパス
- 16 F/T サポーター
連携プログラム
- 17 フェスティバル/トーキョー実行委員会、事務局クレジット
- 18 開催概要

『フェスティバル FUKUSHIMA!@ 池袋西口公園』 音楽／ダンス [日本]

総合ディレクション：プロジェクト FUKUSHIMA! + 山岸清之進

10月15日(土) 15:00 ~ 20:00
10月16日(日) 13:00 ~ 18:30

池袋西口公園

入場無料

盆踊り大会

池袋盆 BAND が生演奏をし、盆踊り隊が舞う

曲目：『池袋西口音頭』『ええじゃないか音頭』ほか

音楽ライブ

参加アーティスト：池袋盆 BAND、大友良英、長見 順、岡地曙裕、珍しいキノコ舞踊団 ほか



Photo: Ryosuke Kikuchi

見どころ

- ① 東日本大震災後の福島で、混沌とした状況のなか、人々を繋いだフェスティバル FUKUSHIMA! が池袋で3年をかけて作り上げた、盛大な2日間の祭り。
- ② 池袋の街に響く新生「池袋盆 BAND」の音色。盆踊りのリズムに新たなメロディ、すべてオリジナルの音頭は行き交う人々を盆踊りの輪へと誘う。
- ③ 池袋西口公園の地面いっばいに敷かれる大風呂敷。縫い合わされた様々な布が日常の風景を変える、今年が見納めの色鮮やかな光景。

2011年の東日本大震災をきっかけに、「FUKUSHIMA」を文化の力でポジティブに変換していくことを目的に始動した「プロジェクト FUKUSHIMA!」。F/T が彼らとともに池袋で3年をかけて作りあげてきた「祭り」の集大成となる2日間。

全国から集めた布で2014年に縫い合わせた大風呂敷が敷き詰められ、会場を鮮やかにする。多彩なアーティストが音楽ライブで会場を沸かし、続いてはじまる盆踊りでは、今年が目玉・パンマス長見順率いる新生「池袋盆 BAND」がすべての音頭を生演奏。通りすがりの人々をも巻き込む大きな輪を生み出すだろう。

F/T サポーター (p.16 ページ参照) 企画では、一般の方々と多くの活動を展開。オリジナルのはっぴを身に纏い、先陣を切って踊りの輪を広げていく「盆踊り隊*1」、会場を彩る装飾やアーティスト、スタッフが身に付けるアイテムなどを製作する「縫い隊*2」など、さまざまな関わり方を通して、今ここでしか生まれない人と人との出会いを生む。

プロフィール



プロジェクト FUKUSHIMA! PROJECT FUKUSHIMA!

2011年3月11日の東日本大震災後、福島の現在と未来を世界に発信することを目的に、音楽家・遠藤ミチロウ、大友良英と詩人・和合亮一を代表とし、福島県内外の有志によって結成。毎年8月、福島で『フェスティバル FUKUSHIMA!』を開催するほか、愛知、多治見、札幌など全国でも同じくフェスティバルを展開してきた。また、インターネット放送局「DOMMUNE FUKUSHIMA!」の運営など、さまざまな活動を継続的に行っている。2015年より山岸清之進が新代表に就任。活動開始から5年目を迎えた現在も、活動に賛同するメンバーは増え続け、各地域で自主的な活動も始まっている。

プロジェクト FUKUSHIMA! 公式ホームページ：http://www.pj-fukushima.jp/



©Susumu Tanno

山岸清之進 Seinoshin Yamagishi

プロジェクト FUKUSHIMA! 代表/ディレクター

1974年福島市生まれ。高校卒業まで福島で育つ。大学・大学院でメディアアートを学び、国内外で作品を発表しながら、番組制作などメディアコンテンツの企画・制作を行う。番組出演をきっかけに交流が始まった福島育ちの音楽家・大友良英と震災直後から連絡を取り合い、プロジェクト FUKUSHIMA! の立ち上げに参加。2011年のフェスティバルがつくられる過程を「ETV 特集 希望をフクシマの地から～プロジェクト FUKUSHIMA! の挑戦」としてドキュメンタリーにまとめた。以降も中心的なメンバーの1人としてプロジェクトに関わり、2015年からは代表を務める。2006年から鎌倉在住。地域の仲間とともにクリエイティブチーム「ROOT CULTURE」を立ち上げ、舞台作品の制作や、地域資源を活用した文化交流・発信拠点となる場づくりの活動も行っている。

※1 盆踊り隊 豊島区内外で開催される盆踊り大会へ参加し、「池袋西口音頭」を一緒に広めていきます。

※2 縫い隊 アーティストやスタッフが身に付けるアイテムや会場装飾の製作、大風呂敷の修復など、縫い物で祭りを盛り上げます。

『Woodcutters — 伐採 —』

演劇
[ポーランド]

翻案・美術・照明・演出：クリスチャン・ルパ
作：トーマス・ベルンハルト

10月21日(金)～10月23日(日)

計3ステージ

東京芸術劇場 プレイハウス

一般前売(全席指定) 5,500円 / 当日 6,000円、

学生 3,000円 ほかセット券あり

上演時間：4時間40分(途中休憩20分あり)

ポーランド語上演/日本語字幕



Photo: Natalia Kabanow

見どころ

- ① タデウシュ・カントル、ピーター・ブルック、アリアヌヌ・ヌムーシュキンにらぶヨーロッパ演劇界「現代演劇界の巨匠」クリスチャン・ルパの作品が日本初上陸。
- ② 1984年当時、オーストリアで実際に起きた話を暴露物として小説化し、後に裁判沙汰にもなったベルンハルトの作品をポーランドに置き換え、国と芸術のありかたに警鐘を鳴らした作品。
- ③ ルパが仕掛ける退廃的な時空間に潜む、痛烈な4時間20分。

ヨーロッパ演劇界「現代演劇界の巨匠」クリスチャン・ルパの作品がいに日本初上陸！ルパが生涯にわたって取り組んでいるオーストリアの作家トーマス・ベルンハルトによる同名の小説を翻案・演出した本作は、2014年ポーランド国内の演劇賞を総なめにした。その後、スペイン、中国、フランスで上演され、世界的な成功を収め続けている。

舞台は自殺した女優の葬儀後に開かれた「アーティストック・ディナー」会場。女優の旧友たちであり、社会に翻弄され芸術的理想を忘れた過剰なエゴにまみれた芸術家たちが集う。友人の弔いをよそに飲み続け、酔って互いの本音を吐露し、辛辣な批判や自虐、激しい怒りをぶつけ合う。出版当時のオーストリアにおける、理念を失った芸術や文化への痛烈な非難を、現代ポーランドの芸術と社会にもに向けた本作は、経済効率に支配され、生活や環境が画一化している現代において、国と芸術のあり方に警鐘を鳴らす。

プロフィール



Photo: Katarzyna Paletko

クリスチャン・ルパ Krystian Lupa

演出家、舞台美術家、作家

1943年生まれ。美術・照明デザインも手がける。物理、絵画、グラフィックや舞台演出を学び、1976年ムロジェク作『屠殺場』で演出家デビュー。1980年代後半からは国立スタリイ劇場で創作活動を行い、主にロシア、ドイツ、オーストリア作家作品の翻案・演出に取り組む。特に舞台化が難しいとされるトーマス・ベルンハルトの戯曲・小説作品の翻案・演出に魅了されるルパは、これまでに、『イマヌエル・カント』、『石灰工場』、『消去』、『英雄広場』等々の上演に成功している。近年の主な作品に、『FACTORY 2』、『Persona. Marilyn』、『Waiting Room O』等があり、現在ヴロツワフ・ポーランド劇場と協力シカフカ作『審判』を製作中。

トーマス・ベルンハルト Thomas Bernhard

小説家、劇作家

1931-1989年。戦後ドイツ語圏を代表する作家の一人。1984年小説『Holzfällen(伐採)』を発表。幼い頃に体験した精神的な孤独と長い闘病生活で死と向き合った経験から、心理の緻密な独白と厭世的な世界観を綴った内容が特徴。辛辣な文体で権威や凡庸な常識を徹底的に攻撃し、欺瞞を容赦なく責める態度に、しばしば作品や発言をめぐってスキャンダルを引き起こし、読者の熱狂的な支持と強い反発の両方に囲まれながら創作を行った。主な作品に、長編小説『霜』、『アムラス』、『当惑』、『ヴィトゲンシュタインの甥』等々がある。

製作 ヴロツワフ・ポーランド劇場
特別協力 ポーランド広報文化センター
Propel Performing Arts & Media Co.,Ltd
共催 Culture.pl



来日スケジュールについて

事前の来日予定はございませんが、10月19日にルパ氏の会見を予定しています。8月30日にポーランド大使館においてドラマトゥルクのPiotr Rudzki氏によるトークならびに公演紹介を行います。

イデビアン・クルー 『シカク』

ダンス
[日本]

振付・演出：井手茂太

10月21日(金)～10月29日(土)

計10ステージ

にしすがも創造舎

一般前売(整理番号付自由席)4,000円 / 当日4,500円、
学生2,600円 ほかセット券あり
上演時間：1時間 (予定)



見どころ

- ① にしすがも創造舎のレジデント・アーティストだった井手茂太率いるイデビアン・クルーが、同舎の事業終了(フィナーレ)に花をそえる新作。
- ② 男女混成のダンサーを起用してきたが、今回は男女それぞれのチームを作り、ダブルキャストで上演する。
- ③ 青木拓也による美術で作りに上げた死角を使い、空間を多面的にみせつつ、黒川貴の映像やASA - CHANG & 巡礼の音楽が、シカクに隠れた言葉や意味の意表をつく。

2004年のにしすがも創造舎のオープンから2010年までレジデント・アーティストを勤めた井手茂太率いるイデビアン・クルーが、新作公演でにしすがも創造舎のフィナーレに花を添える。これまでほとんどの演目に男女混成のダンサーを起用してきたイデビアン・クルーだが、今回は男女それぞれ4人ずつで回を変えて同じ内容を展開する、ダブルキャストに挑戦する。

部屋を模した美術と、そこに住まう4人のダンサーに、映像や美術、音楽といった身体以外の要素を組み合わせ、個々の人間を描き出す。

見たくないもの、見えていないもの、見ようとしているもの。たとえ同じ現実を見ていたとしても、人はそれぞれが持つ視覚を頼りに、シーンを選択し、幾重にも重ね、切り取る。だがそこに“死角”がある限り、慎重に物事を捉えようとする一方で、どこかで意表をつかれてしまうのである。

プロフィール

イデビアン・クルー idevian crew

1991年、井手茂太を中心として結成。1995年に『イデビアン』で旗揚げ公演を行う。以後、独自の解釈に基づいた音楽、身振り、空間造形により、パレエから日本のお葬式まで多様なモチーフを作品にしてきた。国内はもとより、イギリス、ドイツ、フランス、アメリカなど、海外でも活躍。また、異分野のアーティストとのコラボレーションにも積極的に取り組んでいる。

イデビアン・クルー 公式ホームページ：http://www.idevian.com/



©Mina OGATA

井手茂太 Shigehiro Ide

振付家、ダンサー

イデビアン・クルー主宰。カンパニーでの作品発表に加え、近年ではNODA・MAP『逆鱗』(作・演出:野田秀樹)などといった演劇作品へのステージングや振付、椎名林檎や星野源などへのミュージックビデオの振付、テレビコマーシャルの振付・出演など、幅広いジャンルでも活動する。

製作 days
共同製作 フェスティバル / トーキョー
主催 フェスティバル / トーキョー、days
助成 芸術文化振興基金



パク・グニョン × 南山芸術センター 『哀れ、兵士』

演劇
[韓国]

作・演出：パク・グニョン (劇団コルモッキル)

10月27日(木)～10月30日(日)

計4ステージ

あうるすぽっと

一般前売(全席指定) 3,500円 / 当日 4,000円

学生 2,300円 ほかセット券あり

上演時間：1時間 40分

韓国語上演 / 日本語字幕



Photo: Gang Mool Lee ©Namsan Arts Center

見どころ

- ① 韓国演劇界を牽引する劇団コルモッキルの新作。南山芸術センター協力のもと2016年韓国上半期最大の話題作。
- ② 2013年に風刺表現をきっかけに助成申請辞退を強いられるなど、国家と芸術表現の間で格闘するパク・グニョン。日本でもこの話題は大きく取り上げられた。
- ③ 時代と国境を越え、歴史の中で犠牲にされてきた人々の叫びが、同時代を生きる我々に揺さぶり、真の戦線がどこにあるのか問いかける。

韓国演劇界を牽引する劇団の一つで、劇団名でもある「路地(コルモッキル)」から見える庶民の視点から、現代社会に潜む問題を時に笑いを交え、大胆に描く劇作家・演出家パク・グニョン。元大統領を風刺する作品『蛙』(2013)を上演し賛否両論を呼ぶが、その後の芸術活動に大きな影響を受けることになる。本作は、新作のクリエイションに重点を置く、ソウル文化財団南山芸術センターの協力を得て、今年3月に初演を迎えた韓国上半期最大の話題作。

2015年大韓民国の脱走兵、1945年日本での朝鮮人特攻隊員、2004年イラク・ファルージャで米軍に食品を納品する韓国業者の職員、2010年大韓民国・ペクリョン島付近の哨戒艇に乗った船員たち。時間と国境を越え「生きたかった人々」を舞台上に呼び寄せ、国と社会に翻弄され権力者に代わって命を失った彼らの記憶(歴史)を通して、現代国家システムについて疑問を投げかける。

プロフィール



パク・グニョン Kunhyung Park

劇作家、演出家、劇団コルモッキル主宰

1963年生まれ。韓国芸術総合学校演出科教授も務める。代表作として、『青春礼賛』、『代代孫孫』、『キョンスク、キョンスクの父』、『満州戦線』、『蛙』(アリストパネス原作)、『ヒッキー・ソトニテミターノ』(岩井秀人作)などがあり、新宿タイニーアリス、上野ストアハウス、青森県立美術館など日本でも多数公演を行っている。2010年、演出を務めた韓国版『眠れない夜なんてない』(平田オリザ作)は、大韓民国演劇大賞を受賞した。

共同製作 ソウル文化財団南山芸術センター、劇団コルモッキル



Seoul Foundation
for Arts and Culture



来日スケジュールについて

8月18日・19日来日予定。直接取材も可能ですので、お問い合わせください。通常メールインタビュー、スカイプインタビューは可能です。

『x / groove space』

ダンス
[ドイツ]

振付・構成：セバスチャン・マティアス

11月3日(木・祝)～11月6日(日)

計5ステージ

東京芸術劇場 シアターイースト

一般前売 3,500円 / 当日 4,000円、

学生 2,300円 ほかセット券あり

上演時間：1時間30分(予定)

※観客席はございません。



Photo: Katja Illner, design: Shinpei Onishi

見どころ

- ① 2014年より世界各地で展開する振付と都市の新たな関係と可能性を探求するプロジェクト「groove space」シリーズの最新作。東京とデュッセルドルフの2都市をリサーチの拠点とする。
- ② 客席の無い劇場空間に放り出される観客。観客とパフォーマーが、互いの境界線を探る90分間。
- ③ インсталレーション、サウンドパフォーマンス、舞台美術を手掛ける3人の日本人現代美術家とのコラボレーション

都市とその居住者が生み出すグルーブを浮かび上がらせるドイツの振付家セバスチャン・マティアス。本作は、彼が2014年から行っている「groove space」シリーズの最新作である。過去に発表してきた作品は1都市を拠点としていたが、本作では東京とドイツで特に日本人の居住者が多いデュッセルドルフの2都市を拠点にリサーチを進め、6月にはデュッセルドルフで初演を向かえた。本シリーズには舞台と客席という境界線が無く、来場した人や数によって、毎回異なるグルーブが生み出される。

また、拠点となる都市の現地アーティストとのコラボレーションを行い、彼らやダンサーとともに、都市空間とその居住者を観察し、多くの議論を重ねながら作品を創作してきたマティアス。本作では、ダンサーの他に、国内外で幅広い活躍をみせる日本の現代美術家3名がクリエイションに参加。彼らの個性が劇場という1つの空間で共有される試みは、本シリーズならではの魅力である。

プロフィール



Photo: Ryosuke Kikuchi

(写真：左) 伊東篤宏 Atsuhiko Ito
美術家、OPTRON プレーヤー

1980年代後半より美術作家として活動を始める。1998年、蛍光灯を使用した自作音具「OPTRON」を制作。2000年以降、様々なタイプのサウンドパーformerやダンサーとの共演、コラボレーションを数多行っている。

(写真：中央右) セバスチャン・マティアス Sebastian Matthias

振付家

NY ジュリアード学院、ベルリン自由大学で舞踊学を学び、修士号を取得。2009年モンテリオールのLADMMIで、2010年ハンブルクのカンプナーゲルK3にレジデンスアーティストとして滞在。「TREMOR」は2011年ベルリンのゾフィエンゼーレの100°ベルリンフェスティバルで審査員賞を受賞。2014-2016年はデュッセルドルフのtanzhaus nrwのフェクトリーアーティストとして活動中。

(写真：中央左) 瀨山葉子 Yoko Seyama

舞台美術家、メディアアーティスト

主にコンテンポラリーダンスや音楽家とのコラボレーション作品を多く手掛ける。ネザーランド・ダンス・シアターの振付家イリ・キリアン作品における舞台美術の他、過去の受賞・助成としてFilmhuis Works 10 (オランダ)、ポーラ美術復興財団 (日本) 等がある。

(写真：右) 岩井 優 Masaru Iwai

美術家

清掃や浄化を主題に映像、パフォーマンス、インスタレーションを世界各地で制作・発表。今作ではインスタレーションアート、ビデオインスタレーションを担当。

製作 セバスチャン・マティアス
共同製作 タンツハウス nrw デュッセルドルフ、
フェスティバル / トーキョー、東京ドイツ文化センター
ベルリン国際ダンスフェスティバル「タンツ・イン・アウグスト 2016」、
ゾフィエンゼーレ



来日スケジュールについて

事前の来日予定はありませんが、メールやスカイプでの取材については、お問い合わせください。

マレビトの会 『福島を上演する』

演劇
[日本]

作・演出：マレビトの会

11月17日(木)～11月20日(日)

計4ステージ ※各ステージ、上演内容が異なります。

にしすがも創造舎

一般前売（整理番号付自由席）3,500円 / 当日 4,000円、

学生 2,300円 ほかセット券あり

上演時間：1時間30分（予定）



©Keiko Sasaoka

見どころ

- ① 演劇表現の可能性を模索し、長崎、広島、福島をテーマに、F/Tでも過去に数回の創作を行ってきた彼らと新たな長期プロジェクトを始動。
- ② 複数の劇作家が、歴史をただ辿るのではなく、現地取材を行うことで、日常に流れる時間や内在するドラマ、そこにある風景をスケッチするかのよう描く作品群。
- ③ 4日間4ステージすべての上演内容が異なり、出会いの偶然性が上演形態にも反映される。

劇作家、松田正隆を筆頭とする様々なメンバーで演劇表現の可能性を模索してきたマレビトの会。これまで松田の故郷である長崎をはじめ、広島、福島などをテーマに集団での創作を行ってきた。今回、今後の創作の展望を見据えて、F/Tと共同で長期プロジェクトを立ち上げる。その1年目としてF/T12での上演から4年を経て、再び福島を題材とした創作に取り組む。

今回はマレビトの会のプロジェクトメンバーにコントユニット・テニスコートの神谷圭介を迎え、複数の劇作家が現地でのリサーチを経て戯曲を書きあげる。そこで起きた特別な事象や歴史を追うのではなく、日常に流れる時間に内在するドラマを、街の風景をスケッチするかのよう描いた作品が並ぶ。

また、4日間4ステージの公演では、すべてのステージの上演内容が異なる。出会いの偶然性、一期一会の概念が上演形態にも反映され、街の一瞬のうつろいを目撃する舞台となる。

プロフィール

マレビトの会 marebito theater company

2003年、舞台芸術の可能性を模索する集団として設立。代表の松田正隆の作・演出により第1回公演『鳥式振動器官』を上演する。2009年以降は、集団創作に重きを置くとともに、展覧会形式での上演や、現実の街中での上演、インターネット上のソーシャルメディアを用いた上演など、既存の上演形式にとどまらない、様々な演劇表現の可能性を追求している。

マレビトの会 公式ホームページ： <http://www.marebito.org/>



松田正隆 Masataka Matsuda

マレビトの会代表。1962年長崎県生まれ。1996年『海と日傘』で岸田國士戯曲賞、1997年『月の岬』で読売演劇大賞作品賞、1998年『夏の砂の上』で読売文学賞受賞。2003年より演劇の可能性を模索する集団「マレビトの会」を結成。主な作品に『cryptograph』(07)、『声紋都市—父への手紙』(09)、写真家笹岡啓子との共同作品『PARK CITY』(09)、『HIROSHIMA-HAPCHEON：二つの都市をめぐる展覧会』(10)、『アンティゴネーへの旅の記録とその上演』(12)、『長崎を上演する』(13～16)などがある。立教大学現代心理学部映像身体学科教授。

企画
主催

マレビトの会
フェスティバル / トーキョー、一般社団法人マレビト

FM3 『Buddha Boxing』

音楽
[中国]

演出：FM3

12月2日(金)、12月3日(土)

計2ステージ

あうるすぽっと ホワイエ

一般前売 2,000 円 / 当日 2,500 円、

学生 1,300 円 ほかセット券あり

上演時間：1 時間 (予定)

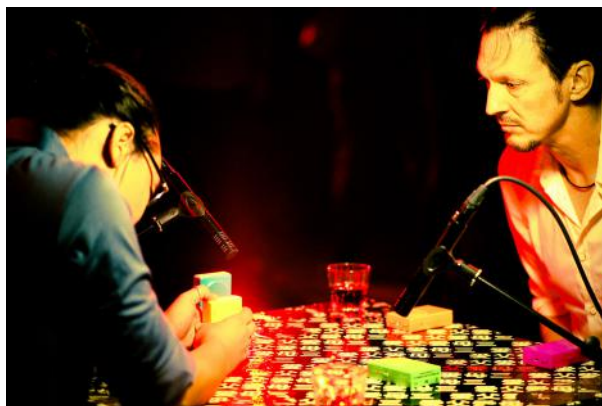


Photo: Ray Fung

見どころ

- ① 中国伝統音楽と現代の電子音楽の融合で、中国における電子音楽のパイオニアとして知られる FM3 が初来日。
- ② 自動念佛再生機「唱佛機」にインスパイアされた箱型の音楽再生機「ブッダマシーン」を使った、将棋のようなライブパフォーマンス。
- ③ ループするアンビエントミュージックがずれては重なり、新しい響きが生まれては消える。

北京在住の中国人ジャン・ジエンとアメリカ人クリスチャン・ヴィラン（通称ラオ・チャオ）による音楽デュオ、FM3。中国における電子音楽のパイオニアとして注目を集めている彼らは、「ブッダマシーン」というスピーカー内蔵型音楽プレーヤーのプロデュースで知られている。中国などで販売されている、お経をリピート再生する「唱佛機」という機械から着想を得たものだ。ブッダマシーンにはお経の代わりに、FM3 によるアンビエントミュージックが収録されている。今回行うのは、この小さな箱型のループ再生機を使ったライブパフォーマンス。その様子は、DJバトルのようにも、あるいは将棋を楽しんでいるようにも見える。ブッダマシーンをスピードコントロールするのはもちろん、動かしたり、重ねたりすることで、音は重なったりズレたりと、新しい響きを常に生み出す。現代音楽と唱佛機の融合から生まれる瞑想的なライブパフォーマンス、初来日のこの機会を見逃さない手はない。

プロフィール



FM3

ロックミュージシャンのクリスチャン・ヴィラン（通称ラオ・チャオ）と、キーボーディストのジャン・ジエンによる音楽デュオ。中国の伝統楽器と現代のデジタル技術を融合した瞑想音楽を創作。ループ再生機「ブッダマシーン」の製作で世界的に知られる。映画やテレビ番組、マルチメディアアート展での音楽製作をはじめ、世界中で広く活動している。

ちんち

『“知日”から見る現代中国』

トーク
[中国]

登壇者：スー・ジン

12月4日(日)

あうるすぽっと ホワイエ

トーク時間：2 時間 (予定)



スー・ジン Jing Su

1981 年湖南省生まれ。大学入学を機に北京へ上京。卒業後、自主映画製作を経て、大手民間出版社に入社。20 代にしてミリオンセラー（袁騰飛 著『歴史是個什麼玩意兒？』(日本語で「歴史って何なんだ?」)を出版し、敏腕編集者として活躍。30 代初めに会社を設立し、2011 年に経営者兼編集長として『知日』を創刊。現在では経営に注力するため編集長を退き、2014 年に『奇点社』というコンテンツインキュベーション事業を立ち上げ、『知日』を初め、複数の月刊誌の運営を続けている。

2011 年に創刊した『知日』は、中国人が中国語で中国人読者に向けて、日本を紹介することを目的とした月刊誌。これまでの特集には、「猫」「漫画」「妖怪」「鉄道」「武士道」「断捨離」「お笑い」「富士山」などがあり、多彩な特集を組んでいる。「猫」「漫画」「料理」「武士道」は 10 万部を売り上げた。

本誌の創刊者であり元編集長である蘇静を登壇者に迎え、『知日』のメイン読者である中国の若者の現状や中国での出版事情、中国の流行などをテーマに、今の中国の現状を掘り下げてトークを開催する。

来日スケジュールについて

事前の来日予定はありませんが、メールやスカイプでの取材については、お問い合わせください。

ダンス
[ドイツ]

ドーレ・ホイヤーに捧ぐ 『人間の激情』『アフェクテ』『エフェクテ』

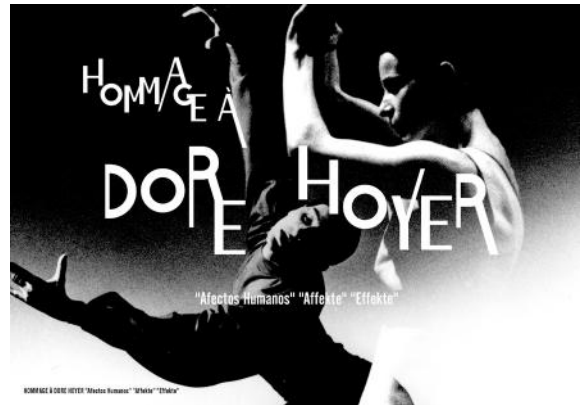
構成・振付：スザンネ・リンケ

12月9日(金)～12月11日(日)

計4ステージ

あうるすぽっと

一般前売(全席指定) 4,000円/当日 4,500円、
学生 2,600円 ほかセット券あり
上演時間：1時間50分(休憩あり・予定)



見どころ

- ① ピナ・バウシュと同時代を生き、今年72歳を迎えるスザンネ・リンケが16年ぶりに来日。
- ② 暗黒舞踏の源流ともなったドイツ表現主義舞踊を目撃する、またとない機会。
- ③ ドーレ・ホイヤーによって振付られ、近現代ダンスの金字塔ともなっている『人間の激情』を再構成した作品を上演。

ドイツ表現主義舞踏の若者であり、ドイツを代表するダンサー・振付家のひとりスザンヌ・リンケが、16年ぶりに来日。自身に世界的名声をもたらした『人間の激情』をはじめとする3作品が若手ダンサーにより「ドーレ・ホイヤーに捧ぐ」と冠し、日本の観客に披露される。

本公演は、近現代ダンスの金字塔ともいわれるドーレ・ホイヤー※1の作品『人間の激情』(哲学者スピノザの唱える48の“人間の激情”のうち5種類をダンスに昇華したソロ作品)の再現や、この作品から触発された『アフェクテ』(1988年初演のカップルの感情的な関係を扱うデュオ作品)、『エフェクテ』(1991年初演の人間感情すべてを抑制したデュオ作品)で構成される。自身や先人が築いてきた近現代ダンスの歴史や記憶のアーカイブともいえる本公演で、振付家として円熟期を迎えたスザンネ・リンケが、次世代へバトンを繋ぐ。今回の来日ではリンケによる貴重なワークショップも実現。

※1 ドーレ・ホイヤー (Dore Hoyer : 1911年～1967年)
舞踊家、振付家。ドイツ表現主義舞踊の歴史の中で最も重要なソロダンサーの一人と称される。高いテクニックの、抽象的な動きの構成は、ポストモダン・ダンスのスタイルを予見するようなものとなっており、多くのダンサーにより再現や再構成されている。

プロフィール



©Bettina Stoess

スザンネ・リンケ Susanne Linke

振付家、ダンサー

1944年生まれ。ドイツ表現主義舞踊創始者の一人、マリー・ヴィグマンに師事し、その後エッセンの Folkwang 学校にて学び、ピナ・バウシュが芸術監督を勤めていたときに Folkwang ダンス・スタジオのダンサーとなる。1980年代半ばから、国際的なソロダンサー、振付家としてのキャリアを追求し始める。プレーメン劇場やコレオグラフィック・センター・エッセンの芸術監督をつとめ、2001年より、再び振付家、ダンサーとして独立。2015/2016年シーズンよりトリアー市立劇場ダンス部門の芸術監督に就任。

製作 トリアー市立劇場
共同製作 ビーレフェルト市立劇場、ブラウンシュヴァイク市立劇場、ラポーアグラス・ベルリン

来日スケジュールについて

事前の来日予定はありませんが、メールやスカイプでの取材については、お問い合わせください。

アジアシリーズ vol.3 マレーシア特集

様々な言語や文化が混在するアジア地域から一カ国を選定し、その国にフォーカスをあてる「アジアシリーズ」。これまでに韓国 (F/T14)、ミャンマー (F/T15) を特集してきた。昨年度に引き続き、国際交流基金アジアセンターとの共催で実施。本シリーズの特色は、作品を選定するにあたり、対象国に滞在し歴史や文化の知識を深めるためのリサーチを行うことにある。現地で活動するアーティストとの対話を通じ、言語・文化・身体の共通点や相違点を見だし、文化的な継続性のある交流を創出することを目指している。

今年度特集するのは、マレー系、中華系、インド系の3民族を中心に構成される多民族・多言語国家マレーシア。経済政策を通じ、国内の格差是正や積極的なグローバル化を図ってきた同国の日常と葛藤を浮かび上がらせる。

本特集は、同時代の演劇・パフォーマンス作品を上演する「公演編」と、プレゼンテーションやゲームを通じてマレーシアの文化、社会を紹介する「レクチャー編」から構成される。建国間もない1960年代生まれ(ジョー・クカサス、ウォン・オイミン)と、高度成長へと向かう1980年前後生まれ(リー・レンシン、ムン・カオ、スリ・リウ、アルフィアン・サアット)という異なる世代、異なる民族的バックグラウンドをもつアーティストたちが、マレーシアの今を多層的に描き出す。

【公演編】

インスタントカフェ・シアターカンパニー 『NADIRAH』

演劇
[マレーシア]

作：アルフィアン・サアット
演出：ジョー・クカサス

11月11日(金)～11月13日(日)

計3ステージ

にしすがも創造舎

一般料金(整理番号付自由席):3,500円/当日4,000円、
学生2,300円 ほかセット券あり
上演時間:2時間30分(予定)
英語、マレー語上演/日本語字幕



photo: Sesha Kalimuthu

見どころ

- ① ベテラン演出家とシンガポールの新進気鋭作家による、インスタントカフェ・シアターカンパニーの代表作を上演。
- ② ヤスミン・アフマドの映画「ムアラフ 改心」と実際に起きた事件からインスピレーションを得た作品。
- ③ 多言語で繰り広げられる会話、宗教や信仰というテーマが、マレーシアで生きる人々の日常をリアルに映し出す。

マレーシアを代表する演出家・俳優のジョー・クカサス率いるインスタントカフェ・シアターカンパニー。劇団としては日本初招聘となる今回、その代表作を上演する。

本作はシンガポール出身の新進気鋭の劇作家アルフィアン・サアットが、第二次世界大戦から独立までのシンガポールの混沌とした状況と、マレーシアの伝説的な映画監督であるヤスミン・アフマドの映画「ムアラフ 改心」からインスピレーションを受けてこの作品を執筆した。

ジョー・クカサスはこれまでも、作品を通してマレーシアの多様な民族や宗教、文化と、そこから生まれる緊張を風刺的にかつ笑いを交えて表現。古典のアレンジや、若手作家とのコラボレーションを経て、古典に現代マレーシアの社会情勢を反映させた作品をディレクションしている。本作では、マレーシアの民族の文化・言語・宗教において、結婚という節目で起こる問題を描いている。

プロフィール



アルフィアン・サアット Alfian Sa'at
詩人、作家、劇作家
1977年生まれ。マレー系シンガポリアン。シンガポール国立大学医学部を経て、詩、劇作、短編小説など幅広く活動し、数々の賞を受賞。1998年に第一詩集『荒ぶる時』、1999年に第一短編集『廊下』を上梓。戯曲はドイツ語、スウェーデン語などに訳され上演された。現在は劇団 Wild Rice の座付き作家としても活躍中。



Photo: Faizal Mustafa

ジョー・クカサス Jo Kukathas
劇作家、演出家、俳優
マレーシアの多様な民族、宗教、文化、社会を反映した風刺コメディの作風で知られ、現代マレーシア演劇を代表する演出家の一人。古典から現代演劇まで幅広く手がけている。日本では世田谷パブリックシアターとの共同制作「あいだの島」、「ホテルグランドアジア」を発表し、世界各地でワークショップを行うなど国際的に活躍している。

共催 国際交流基金アジアセンター



来日スケジュールについて

事前の来日予定はありませんが、メールやスカイプでの取材については、お問い合わせください。

アジアシリーズ vol.3 マレーシア特集

【公演編】

『B.E.D. (Episode 5)』

ダンス
[マレーシア]

構成・演出・振付：リー・レンシン

11月12日(土)～11月13日(日)

計4ステージ

江東区某所

一般前売：2,500円 / 当日 3,000円、

学生 1,600円 ほかにセット券あり

上演時間：1時間30分(予定)



Photo: Wong Horngyih

見どころ

- ① マレーシアで最も才能のある若手振付家の一人との呼び声も高い、リー・レンシンによるシリーズ5作目。
- ② 2週間の東京での滞在制作を経て、都市空間にアプローチした作品。
- ③ 安全で快適なプライベート空間の象徴としてマットレスを用いながら、マットレスとダンサー、観客を通して、パブリックとプライベートの対比を描く。

マレーシアの若手振付家、ダンサーとして注目を集めるリー・レンシン。近年では実験的な作品を創作することが多く、ダンサーの反応を引き出しながら、そこからインスパイアされた動きを重視し作品を立ち上げていく。また、上演環境によってダンスのリズムや感触、作品の質が微妙に変化することにも着目し、それを意識した創作を行っている。

彼女の代表作となったシリーズ作品『B.E.D.』は今回で5作目となる。マットレスを安全で快適なプライベート空間の象徴とし、マットレスとダンサー、観客の関係性を通して、パブリックとプライベート、二つの空間の対比を描きだす。東京公演では2週間の滞在制作を行い、都市空間にアプローチした作品を創作する。

プロフィール



リー・レンシン Renxin Lee

振付家・ダンサー

シンガポールのNanyang Academy of Fine Arts在学中、T.H.E Second Companyで振付を学ぶ。2010年9月に、ニューヨークのPurchase Collegeへ編入し、BFA in Danceを取得。その後、LeeSaar The Companyに参加。Five Arts Center創設メンバーのひとりであるマリオン・ドゥ・クルーズ (Marion D'Cruz) も「マレーシアで最も才能のある若手振付家の一人」と、太鼓判を押している。

共催 国際交流基金アジアセンター

ASIAcenter
JAPAN FOUNDATION

来日スケジュールについて

事前の来日予定はありませんが、メールやスカイプでの取材については、お問い合わせください。

アジアシリーズ vol.3 マレーシア特集

【レクチャー編】

ASWARA - マレーシア国立芸術文化遺産大学 『BONDINGS』

レクチャー
[マレーシア]

コンセプト：BONDINGS クリエイティブチーム

作：スリ・リウ

講師・演出：ウォン・オイミン

11月4日(金)～11月6日(日)

計3ステージ

森下スタジオ

参加費：2,500円

所要時間：2時間(予定) *実演後のレクチャーを含む。

マレー語(一部中国語・タミル語・英語)/日本語字幕

◎5日終演後ワールドカフェ※1あり(日本語、参加費無料、要予約)



見どころ

- ① ASWARA - マレーシア国立芸術文化遺産大学によるレクチャーと実演形式を通して、マレーシアの現状を知る。
- ② 日本の大学で博士号を取得し、マレーシアで演劇フェスティバルをプロデュース予定のウォン・オイミンが中心となり、若手作家スリ・リウを迎え、若手俳優と共同で本プログラムを製作。
- ③ 民族や言語によって分断されているマレーシアの舞台芸術シーンの現状を打破するべく、多民族・多言語で実演する。

ASWARA - マレーシア国立芸術文化遺産大学によるレクチャーと実演を行い、マレーシア特有の多民族文化に所以する舞台芸術シーンの今を知る。ASWARA で教鞭をとる演出家ウォン・オイミンが中心となり、若手俳優と共に製作。脚本に若手作家スリ・リウを迎え、サッカー、バスケットボール、ホッケー、バドミントンなどのスポーツを象徴的に用い、民族間の越境を描く。

多様性のある自国に誇りを持つ人が多くいる反面、自分が所属する民族のコミュニティ以外との交流は少なく、舞台芸術シーンも言語によって分断されている。そんな現状を打破するべく、多民族・多言語で行われる実演は、多様性の在り方について考えるきっかけとなるだろう。

また、レクチャーやディスカッション、参加者同士で感想をシェアするワールド・カフェ※1を通じ、マレーシア社会や文化について理解を深めるとともに、アーティストと参加者の交流を図る。

※1ワールド・カフェ
テーブルごとに小グループに分かれ、フォーマルな会議ではなくカフェのようなオープンな雰囲気の中で話し合いをする。メンバーチェンジを数度行うことで、多くの人と情報の共有ができ、また、そこから多くのアイデアが生まれ、人間関係をつないだりする、創造的な話し合いの方法。

プロフィール



スリ・リウ Suri Liu

作家、シナリオライター、放送作家

1977年生まれ。1998年からジャーナリスト、作家としてキャリアをスタートさせる。図書館司書のアシスタントとして勤務後、映画、テレビでの脚本提供、作詞、雑誌や新聞での執筆など幅広い分野で活動中。2003年に中華系マレーシア人と結婚。二児の母。



ウォン・オイミン Oimin Wong

芸術学博士、演出家、俳優、マレーシア国立芸術文化遺産大学 (ASWARA) 演劇学部学部長、ASLI 演劇連盟前代表

日本大学芸術学研究科にて芸術学博士号を取得。日本、カナダ、メキシコ、香港、台湾など各地で開催された国際演劇フェスティバルにおいて演劇作品を発表。創作活動の傍ら、様々な機関において審査や評論にも携わる。“多文化共生に向かって越境しよう”という理念の下、創作および研究活動と多方面にわたり活躍している。

共催 国際交流基金アジアセンター



来日スケジュールについて

事前の来日予定はありませんが、メールやスカイプでの取材については、お問い合わせください。

アジアシリーズ vol.3 マレーシア特集

【レクチャー編】 『POLITIKO』

レクチャー/ゲーム
[マレーシア]

講師・コンセプト：ムン・カオ

11月8日(火)～11月12日(土)

計5回

森下スタジオ

参加費：1,500円

所要時間：約2時間

日本語表記/日本語通訳付(予定)



見どころ

- ① 2013年の発売以来、マレーシア国内で1500セット完売した作品。
- ② マレーシアの政治状況を、ゲームを通じて知ることができる。
- ③ ゲームの前にはレクチャーを行い、十分な解説を経て楽しむことができる。

架空の政党の党首となり、
マレーシアの総選挙で勝利を目指せ！
現金の配布、燃料補助金、
モスクの修繕などで有権者を獲得！
メディアをコントロールせよ。
セックススキャンダルをでっち上げよ。
仲間も陥れる。
政治方針を無視して連立政権を作れ。
そう、すべては選挙に勝つためだ！

- 『POLITIKO』パッケージより

クリエイター、ムン・カオがアートプロジェクトの一環として創作した政治カードゲーム『POLITIKO』。ポリティコとは“軽く扱われるまたは利己的だと思われる政治家”を意味し、多民族国家マレーシアの政治状況を反映した風刺的要素を持つゲームである。

この『POLITIKO』が作られた2013年はマレーシアの総選挙があり、投票率85%という驚異的な数字を出している。結果は長期政権を続けてきた与党の勝利となったが、その裏には汚職、裏金、不正な選挙権といった問題が多くあったと言われている。

このゲームはCNNで報道されたり、台湾版が製作されるなど、世界でも注目されている。レクチャーを含めて体験することで、アートのあり方を再考し、マレーシアの政治や文化、社会背景について理解を深めるきっかけとなる。

遊び方

プレイヤーは一つの政党(政党カード)を選び、様々な策略(スキームカード)を駆使して、有権者(有権者カード)を集める。8枚の有権者カードを集めたものが勝利となる。
対象年齢：14歳以上

プロフィール



ムン・カオ Mun Kao

デザイナー、アーティスト

1982年クアラルンプール生まれ。絵画、インスタレーション、演劇のほか、カードゲームなどアートにとどまらない分野で作品を発表。マレーシアの政治に基づいたカードゲーム「POLITIKO」の製作、風水専門家とのコラボレーションなど活動は多岐に渡る。Zedeck Siewと共に、遊びを通して学ぶことを研究するリサーチ・イニシアティブ団体CENTAUR(Centre for Artful and Useful Recreation)を結成。

共催 国際交流基金アジアセンター



来日スケジュールについて

事前の来日予定はありませんが、メールやスカイプでの取材については、お問い合わせください。

まちなかパフォーマンスシリーズ

池袋東口エリアは、豊島区庁舎の移転や新しい8つの劇場の完成（2020年・春）を視野に、公園の整備などの都市開発が進み、池袋の文化におけるあらたな発信地となりつつある。F/Tでは池袋東口をさらに盛り上げるべく、まちを使ったパフォーマンスシリーズを企画。

第1回となる今年度は、2016年4月にオープンしたばかりの南池袋公園内のカフェ、豊島区庁舎10階 豊島の森、あうるすぽっとホワイエなどを舞台にし、演劇・ダンス公演を複数上演する。

『ふくちゃんねる』

演劇
[日本]

作・演出・出演：福田 毅

10月27日（木）～10月30日（日）

計8ステージ

南池袋公園内 Racines FARM to PARK（予定）

チケット料金：未定

上演時間：1時間（予定）

俳優として「中野成樹＋フランケンス」で活躍する福田毅による一人芝居。独特のユーモラスな語り口によって描かれる物語は老若男女問わず楽しむことができる。これまで様々なテーマを扱ってきた福田が選んだのは「通信販売」。テレビ番組の形式を演出に取り込み、観客との相互的な関係性を作り出す。さまざまな架空の商品の紹介を通して、現実なのかフィクションなのかわからないような寓話的な物語が、カフェの片隅で展開される。



Photo: Ryohei Tomita



福田 毅 Takeshi Fukuda

俳優

中野成樹＋フランケンス所属。2003年のカンパニー旗揚げ当初からほぼ全作品に出演。また、ソ・ヒョンソク『From the Sea』(F/T14)など、客演も多数。2009年よりソロ・パフォーマンスを開始。虚実ないまぜの独特の語り口で観客を魅了する。2015年にはTwitterに書き溜めた寓話を構成した新作『鷹』、カモ・カフェ（にしすがも創造舎）仕様にアレンジした『かも』を発表。

Photo: Takaki Sudo

『うたの木』

ダンス
[日本]

森川弘和（振付・出演）× 村上 渉（振付・出演）× 吉田省念（音楽・出演）

11月10日（木）～11月13日（日）

計8ステージ

豊島区庁舎10階 豊島の森（予定）

チケット料金：未定

上演時間：50分（予定）

F/T14『動物紳士』でストイックな挑戦心と遊び心で観客を魅了した振付家、ダンサー森川弘和による新作。今回は大阪で活躍する若手パフォーマー村上渉と京都で活躍する音楽家の吉田省念と3人のコラボレーションを実現させる。会場は豊島区庁舎の10階にある庭園「豊島の森」。かつての豊島区の自然を再現し、植生や生態など自然のしくみを学びながら憩える場所で、3人が紡ぎ出す新たな都市の風景に出合う。



Photo: Tsukasa Aoki

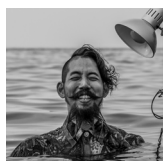


森川弘和
Hirokazu Morikawa

ダンサー

22歳で渡仏しマイムとサーカスを学ぶ。帰国後、京都を拠点に活動する Monochrome Circus のダンサーとして5年間活躍。2007年よりフリーランスとなる。自身の作品を発表するほか、さまざまなプロジェクトに参加。F/T14では美術家・杉山至との共作『動物紳士』を上演。瞬発力と抜群のポディバランスを生かした動き、ストイックな挑戦心とユーモアを併せ持ったパフォーマンスは高い評価を得ている。

Photo: Takaki Sudo



村上 渉
Wataru Murakami

パフォーマー、振付家

1987年生まれ、大阪府出身。専門学校にてストリートダンス全般を学ぶ。卒業後、コンテンポラリーダンス、舞踏、瞑想、禅など様々な分野に触れ、大阪を拠点にクラブや路上パフォーマンス、舞台作品などに参加。近年は国内外問わずダンサー、ミュージシャンとともに即興パフォーマンスを敢行。自由かつ繊細に、ただそこに在ることに重きを置き、静かに身体を聞き、気の赴くままに、大きな流れに身を委ね、今を生きる方法の一つとして踊っている。

© 松本成弘



吉田省念
Shonen Yoshida

音楽家

京都を拠点に活動。2011年～2013年くるりに在籍し、ギターとチェロを担当し「増嶋の電圧」をリリース。2014年から京都にてマンズリーライブ「黄金の館」を主催し、様々なミュージシャンと共演。2015年には舞台『死刑執行中脱獄進行中』（原作：荒木飛呂彦）の音楽を担当。音楽を基点に様々なジャンルとコラボレーションする活動は、大きく注目されている。

まちなかパフォーマンスシリーズ

ドキュメント 『となりの街の知らない踊り子』

演劇
[日本]

脚本・振付・演出：山本卓卓

12月1日(木)～12月4日(日)

計4ステージ

あうるすぽっと ホワイエ

チケット料金：未定

上演時間：1時間30分(予定)

製作：急な坂スタジオ



Photo: Ryuichiro Suzuki

国内外で注目を集める劇団・範宙遊泳率いる山本卓卓によるソロプロジェクトである「ドキュメント」。ひとりの人間を生い立ちから掘り下げ、人間の機微を浮かび上がらせる作品を創作している。本作はダンスカンパニーBaobabの主宰であり、振付家・ダンサーでありながら俳優としても活躍する北尾亘とタッグ組んで創作された。今回はあうるすぽっとのホワイエにて上演。プロジェクターを通して投げかける台詞に、北尾の身体が繋がりと、その向こうにどこかの「街」が立ち上がってくる。

ドキュメント DOCU(NT)MENT

2012年より範宙遊泳主宰の山本卓卓が始めた、一人の人間に焦点を当てて生い立ちから掘り下げて作品化するソロプロジェクト。



山本卓卓 Suguru Yamamoto

1987年生まれ。舞台上に透写した文字・写真・映像・色・光・影などの要素と俳優を組み合わせた独自の演出と、観客の倫理観を揺さぶる問いのある脚本で日本国内のみならずアジア諸国からも注目を集め、マレーシア、タイ、インド、シンガポールで公演や共同制作を行っている。

チェルフィッチュ

演劇
[日本]

『あなたが彼女にしてあげられることは何もない』

作・演出：岡田利規

12月初旬

池袋東口某所

チケット料金：未定

上演時間：30分(予定)

製作：チェルフィッチュ

企画・制作：プリコグ

初演：おおいたトイレンナーレ 2015

おおいたトイレンナーレ 2015、国際舞台芸術ミーティング in 横浜 2016(TPAM)で上演され、その独特の上演形態が注目された作品の東京公演。営業中のカフェの一席で、天地創造や地球史を巡る物語を独り言のようにつぶやきつづける女を、観客は窓越しに観劇する。都市の風景に溶け込むようにして語られる日常と掛け離れた壮大な物語は、都市のなかに潜む些末な問題や、遠く離れた別の場所の出来事へと想像を呼び起こす。

チェルフィッチュ chelfitsch

岡田利規が全作品の脚本と演出を務める演劇カンパニーとして1997年に設立。2007年『三月の5日間』(第49回岸田國士戯曲賞受賞作品)にて国外進出を果たして以降、世界70都市での上演歴を持つ。近年は、海外のフェスティバルによる委託作品製作の機会も増えており、活動の幅をさらに広げている。

チェルフィッチュ

岡田利規 Toshiki Okada

1973年横浜生まれ、熊本在住。活動は従来の演劇の概念を覆すとみなされ国内外で注目される。主な受賞歴は、『三月の5日間』にて第49回岸田國士戯曲賞、小説集『わたしたちに許された特別な時間の終わり』にて第2回大江健三郎賞。主な著書に『遊行変形していくための演劇論』、『現在地』(ともに河出書房新社)などがある。2016年よりドイツ有数の公立劇場のレパートリー作品の演出を3シーズンにわたって務める。



Photo: Kikuko Usuyama



© おおいたトイレンナーレ実行委員会
Photo: Yasunori Takeuchi

F/T キャンパス

10月21日(金)～10月24日(月)

会場：東京芸術劇場、にしすがも創造舎、
国立オリンピック記念青少年記念センターほか
宿泊場所：国立オリンピック記念青少年オリンピックセンター宿泊棟
募集人数：約30名 ※定員を上回る場合は、書類選考にて決定
参加費：15,000円（観劇チケット代金、宿泊費、交流会費を含む）

応募資格：

- ・学生であること（大学生、大学院生、専門学生）
- ・3泊4日の合宿プログラムに参加できること
- ・終了後1ヶ月以内に1000字程度の振り返りレポートを提出できること（レポートは冊子にまとめる予定）



Photo: Kazuya Kato

見どころ

- ① 世界最先端の作品をまとめて観劇
- ② アーティストとの特別トークを開催
- ③ 大学の学びと異なる分野にチャレンジする「選択ゼミ」を開講
- ④ 全国から集まった他大学の学生との交流

文化政策や芸術・演劇を学ぶ学生が共に学び、交流する合宿ワークショップ、「F/T キャンパス」を開催。昨年度はパイロット事業として実施され、東京・静岡・京都・大阪から26名の大学生・大学院生が参加し、ネットワークの輪が生まれた。

プログラムは「観劇」「アーティストとのトーク」「選択ゼミ」からなり、期間中には世界最先端の作品を合計3公演を観劇(予定)。さらに参加者を対象としたアーティストとのトークでは、作品について演出家と対話する場を設ける。大学の学びと異なる分野に挑戦する「選択ゼミ」の講師には柴幸男(実技)、萩原健(理論・評論)、稲村太郎(文化政策)を迎え、あらたな視点を持つ機会とする。

今年度はひろく参加者を公募。4日間のプログラムを通して、普段の学びや興味関心を捉えなおし、仲間とともに未来を切り開いていく試みとなるだろう。

講師プロフィール



柴 幸男 Yukio Shiba

劇作家、演出家、ままごと主宰。青年団 演出部所属。急な坂スタジオ レジデント・アーティスト。多摩美術大学専任講師、四国学院大学非常勤講師。東京の劇場から北九州の船上まで、新劇から学芸会まで、場所や形態を問わない演劇活動を行う。2010年『わが星』で第54回岸田國士戯曲賞を受賞。2015年に再々演された同作は東京・小豆島で約9000名を動員。近年は小豆島や横浜に長期滞在し地域に根ざした演劇を継続的に上演。2014年より『戯曲公開プロジェクト』を開始、過去の戯曲を無料公開している。



萩原 健 Ken Hagiwara

1972年東京都生まれ。明治大学国際日本学部教授。研究テーマは20世紀以降のパフォーミング・アーツ、その歴史と異文化間交流(主に日本とドイツ)。共訳にフィッシャー・リヒテ『パフォーマンスの美学』、共著に『村山知義 劇的尖端』ほか。これまでフェスティバル/トーキョーが招聘したリミニ・プロトコルの作品群を中心に、戯曲翻訳、通訳、字幕翻訳・制作・操作も多く手がける(萩原ヴァレントヴィッツ健。『資本論 第一巻』(F/T09春)には出演)。



稲村太郎 Taro Inamura

1976年生まれ。(株)ニッセイ基礎研究所芸術文化プロジェクト室。大学卒業後、民間の複合文化施設で現代美術の展覧会の企画・制作を担当。現在、株式会社ニッセイ基礎研究所芸術文化プロジェクト室の研究員、公益財団法人セゾン文化財団のプログラム・オフィサーを務める。文化政策では、事業評価やアーティストのモビリティに関するリサーチを行っている。

Photo: Kazuya Kato

F/T サポーター

F/Tを応援し、一緒に盛り上げるボランティア・スタッフ「F/T サポーター」。2年目となる今年は、【フェスティバル運営サポート】【プロジェクトサポート】【自主活動】の3本の柱に加えて、登録なしでも参加できる「オープンデー」などの機会をつくり、人とコミュニティをはぐくむプログラムを展開。サポーターには、興味を持った段階でいつでも登録することができ、活動に参加することができる。現在300名以上の登録があり、観客としてフェスティバルを体験するだけではない、多彩な活動を行っている。

1. フェスティバル運営サポート

F/Tで実施される事業（連携プログラムは除く）の運営サポートを行う。来場したお客様のご案内（フロント業務）や、楽屋準備、アーティストのアテンドなど。事前にフロント研修会を行なうので、経験がなくても参加できる。フェスティバルの顔としておもてなしを行う。

※8月上旬 詳細発表・募集開始（予定）



Photo: Kazuya Kato

2. プロジェクトサポート



プロジェクト（公演）への参加や、小道具や大道具などの製作支援等を行う。今年度は、『フェスティバル FUKUSHIMA! @池袋西口公園』で生まれた「池袋西口音頭」を踊る「盆踊り隊」と、縫い物で祭りを盛り上げる「縫い隊」、即興音楽を奏でる「音楽隊」等が活躍。運営サポートのF/Tサポーターとともに会場を彩る。

- ◆『フェスティバル FUKUSHIMA! @池袋西口公園』
「盆踊り隊」「縫い隊」「音楽隊」
- ◆アジアシリーズ vol.3 マレーシア特集
『POLITIKO』マスターワークショップ（予定）

3. 自主活動

サポーターが主体となる活動。F/T15ではサポーターによって考えられた企画がフェスティバルを彩った。今年度は2つのワークショップを通して、企画を考え、実施まで行う。サポーターとアーティストのアイデアが混じり合った企画は、フェスティバルに新たな魅力をもたらす。

- ◆建築ユニット tomito architecture と
デザイナー阿部太一とのプロジェクト
- ◆ファシリテーター白川陽一とのプロジェクト



活動の様子

Facebook ページ → <https://www.facebook.com/ftsupporter>

昨年度の活動内容 → <http://www.festival-tokyo.jp/15/news/supporter-00/>

連携プログラム

フェスティバル/トーキョー 16 会期中の2016年10月から12月にわたって、都内および東京近郊で開催される公演の中でも、とりわけ高い現代性と豊かなオリジナリティを持つ国内外の演劇やダンスの14演目を、F/T16 連携プログラムとして紹介する。


■フェスティバル / トーキョー実行委員会

顧問	野村 萬 福原義春	公益社団法人 日本芸能実演家団体協議会会長、能楽師 株式会社資生堂 名誉会長
名誉実行委員長	高野之夫	豊島区長
実行委員長	福地茂雄	公益財団法人新国立劇場運営財団 顧問、 アサヒビール株式会社 社友
副実行委員長	市村作知雄 小澤弘一 東澤 昭	NPO 法人アートネットワーク・ジャパン 会長 豊島区文化商工部長 公益財団法人としま未来文化財団 常務理事／事務局長
委員	尾崎元規 熊倉純子 斉藤幸博 鈴木敦子 鈴木正美 永井多恵子 樋口友久 岸 正人 蓮池奈緒子 葦原円花 河合千佳	公益社団法人企業メセナ協議会 理事長、花王株式会社 顧問 東京藝術大学音楽学部音楽環境創造科 教授 株式会社資生堂企業文化部長 アサヒビール株式会社経営企画本部社会環境部 部長 東京商工会議所豊島支部 会長 公益財団法人せたがや文化財団 理事長 豊島区文化商工部文化デザイン課長 公益財団法人としま未来文化財団 部長 NPO 法人アートネットワーク・ジャパン 理事長 フェスティバル / トーキョー 事務局長 フェスティバル / トーキョー 副ディレクター
監事	佐々木美津子	豊島区総務部総務課長
法務アドバイザー	福井健策、北澤尚登	(骨董通り法律事務所)

■フェスティバル / トーキョー実行委員会事務局

ディレクター	市村作知雄
副ディレクター	河合千佳
事務局長	葦原円花
制作	喜友名織江、十万里紀子、荒川真由子、砂川史織、松嶋瑠奈、松宮俊文、 横井貴子、岡崎由実子、三竿文乃、藤井友理、細川浩伸、米原晶子
広報・営業	長原理江
広報	小倉明紀子、武田侑子
経理	堤 久美子
総務	平田幸来
票券	武井和美
チケットセンター	佐々木由美子、佐藤久美子
技術監督	寅川英司
技術監督アシスタント	河野千鶴
照明コーディネート	佐々木真喜子 (株式会社ファクター)
音響コーディネート	相川 晶 (有限会社サウンドウィーズ)
アートディレクション	氏家啓雄 (有限会社氏家プランニングオフィス)
イラスト	naomi@paris.tokyo
ウェブサイト	竹下雅哉 (有限会社氏家プランニングオフィス)
海外広報・翻訳	ウィリアム・アンドリュース
物販	渡辺 淳
コピーライティング・編集	鈴木理映子
プログラム・コーディネート	横堀応彦
中国プログラム・コーディネート	小山ひとみ

開催概要

- 名称** フェスティバル/トーキョー 16
- 会期** 平成 28 年 (2016 年) 10 月 15 (土) ~ 12 月 11 日 (日)
- 会場** 東京芸術劇場
あうるすぽっと (豊島区立舞台芸術交流センター)
にしすがも創造舎
池袋西口公園
森下スタジオ ほか
- プログラム数** 主催プログラム 16 演目・4 企画
連携プログラム 14 演目
- 主催** フェスティバル/トーキョー実行委員会
豊島区/公益財団法人としま未来文化財団/ NPO 法人アートネットワーク・ジャパン、
アーツカウンシル東京・東京芸術劇場 (公益財団法人東京都歴史文化財団)
- アジアシリーズ共催** 国際交流基金アジアセンター 
- 協賛** アサヒビール株式会社、株式会社資生堂
- 後援** 外務省、公益社団法人日本芸能実演家団体協議会、J-WAVE 81.3 FM
- 特別協力** 西武池袋本店、東武百貨店池袋店、東武鉄道株式会社、株式会社サンシャインシティ、
チャコット株式会社
- 協力** 東京商工会議所豊島支部、豊島区商店街連合会、豊島区町会連合会、一般社団法人豊島
区観光協会、一般社団法人豊島産業協会、公益社団法人豊島法人会、池袋西口商店街連
合会、特定非営利活動法人ゼファー池袋まちづくり、池袋西口公園活用協議会、南池袋
公園をよくする会、ホテルメトロポリタン、ホテル グランドシティ、池袋ホテル会
- 宣伝協力** 株式会社ポスターハリス・カンパニー、早稲田大学坪内博士記念演劇博物館

平成 28 年度 文化庁 文化芸術による地域活性化・国際発信推進事業
(池袋/としま/東京アーツプロジェクト事業、としま国際アートフェスティバル事業)



フェスティバル/トーキョー 16 は東京舞台芸術祭 2016 の一環として開催されます。

※一部申請中を含む

CULTURE & TOKYO



公益財団法人
としま未来文化財団

ANJ Arts Network Japan
NPO 法人 アートネットワーク・ジャパン



東京芸術劇場
Tokyo Metropolitan Theatre

※演目ページのクレジットに記載されている「フェスティバル/トーキョー」とは上記主催の略称です。

チケット情報

一般前売チケット 発売日：2016年9月11日（日）10:00

先行割引チケット 9月7日（水）10:00～9月10日（土）19:00 限定4日間

一般前売チケット・参加費が **約30% OFF** で購入いただけます。枚数限定！

F/T ならではのお得なチケット

詳細は F/T 公式 HP へ。8 月下旬に詳細発表

ペアチケット 3 演目 / 5 演目セット 学生チケット 高校生以下チケット

チケット取り扱い

■ F/T チケットセンター（開設期間：9/7～12/11）

電話予約：03-5961-5209 12:00-19:00（9/7・9/11のみ10:00より受付）

9/7～9/14・10/15～12/11：無休

9/15～10/14：木・日・祝定休

オンライン予約：<http://www.festival-tokyo.jp>（24時間受付）

■ 東京芸術劇場ボックスオフィス（先行割引・一般前売・ペア・学生・高校生以下チケット取扱い）

電話予約：0570-010-296（休館日を除く10:00-19:00 / 窓口販売あり）

オンライン予約：<http://www.geigeki.jp/>

※有料託児サービス TEL：03-3981-7003（だっこルーム・要予約）

■ チケットぴあ（先行割引・一般前売取扱い）

電話予約：0570-02-9999（Pコード予約）

オンライン予約：<http://pia.jp/t/festival-tokyo/>

■ カンフェティ（先行割引・一般前売取扱い）

電話予約：0120-240-540（平日10:00-18:00オペレーター対応）

オンライン予約：<http://www.confetti-web.com/ft2016>

※無料託児サービス有

※当日券は一般前売+500円で各会場受付にて販売いたします。

報道関係お問合せ

フェスティバル / トーキョー実行委員会事務局

広報：小倉、武田

TEL：03-5961-5202 FAX：03-5961-5207 MAIL：press@festival-tokyo.jp

〒170-0004 東京都豊島区北大塚1-15-10 東部区民事務所3階

本プレスリリースの文字データや、使用画像等の宣材は下記からダウンロードいただけます。

<http://www.festival-tokyo.jp/16/press/>

※画像のご利用、フェスティバルや作品に関する情報をご掲載いただける折は、上記までご一報いただけますようお願い申し上げます。

※上記ダウンロードサイト内にはない素材に関してはお問合せください。

※個別の作品に関わる取材のお申し込み等はこちらにて承ります。

発行日：2016年7月13日

※記載の情報は、7月13日現在のものになります。